

蓬萊町だより

昭和六十一年七月十日  
第百一十四号  
蓬萊町会部  
発行  
編集者

蓬萊町界限(その十一)

肴町あたり(II)

林 順 信

◆想い出の二葉写真館

前回に引き続き肴町の東側を、交差点に向かつて北に歩いてみようと思う。

現在、新たに改築中のブラザーミシンのところの鈴木代八車の店から、北へは、確か家具屋があったが、その名前が思い出せない。その家具屋のあとを受けて、戦後ベッドやミシンを扱う店となったのであろうか。続いて十方寺の参道を間に、すぐ角地に、二葉写真館があった。ここは肴町五番地で、泰誠一写真師の経営する、なかなか立派な西洋館であった。今こそ、猫も杓子もカメラをいじくる時代となったが、戦前には、写真師と言えば土地の名士扱いであった。第一、写真師と師の字がつくことからそれかわかる。

(1) 昭和十八年、第二次大戦たけなわ、皇軍の戦

況も急を告げていた時、私の田舎の従兄弟が二人、私の家にやって来た。二人共大学生で、いよいよ「赤紙」が来て、出征するからといって挨拶に来たのであった。当時、男子たるもの、一旦戦争に赴くとすれば、今生の別れを告げに私の家までやって来たことくらいは、無言のうちにも、お互いに覚悟の気持ちはわかっていたものである。私は京華中学三年生の十五歳、三人で記念写真をとって貰いに二葉写真館に行った。昔は、三人で写真をとる時には、真中に入る人が早死するからと言って、真中に入ること皆嫌っていた頃だから、泰誠一写真師が「わきに小犬とかお人形を置いて四人にしますか？」と言ったが、一番若い、戦争に行かない私が真中に立つことにした。二人の従兄弟のうち、立正大学に在学中の林巨海は、フィリピンのコレヒドールで、戦場の露と消えた。もう一人の従兄弟谷本勉は、中国からソ連に抑留され、昭和二十二年に栄養失調の瘦せた身体で、かろうじて復員して来た。今でも、その写真は私のアルバムに片隅に貼ってある。林巨海は、岡山一中時代から、関西では知られた短距離と走高跳の選手で、彼の記録は、よく新聞紙上に出ていただけに、惜しい従兄弟を失ったわけである。三月十日の東京大空襲で二葉写真館も灰燼と帰し、戦後は再び復活することがなかった。

◆三度店を動いた天安

二葉写真館から北へは、少年時代の私にはさして用事もなかった。金森三次郎の金森建具店、奥田伝之助の奥田写真器械店と、江上というアメ屋があった。奥田という写真器械のお店は、京橋の横町一丁目にあった奥田長之助のお店と同系であったかも知れない。

その北隣りは、岡村金物店で、岡村は、中仙道の東片町にも店があって、私と京華中学で同級生の岡村君は東片町の方の岡村だった。その頃の長寿庵そば店は荒川庄之助という行司みたいな名前の丹那の店で、娘さんが私の上の妹とは文京六中で同級生であった。現在の長寿庵の位置は、戦後からすると北に移動しているわけで、戦前は肴町六番地だったのが、今のお店だと八番地に位置していることになる。荒川長寿庵の北には小さな路地があって(これは今もある)、次に大黒屋という駄餅屋があった。この大黒屋の跡地に、現在の天ぶらの天安が南の並びの方から移ったのは昭和十一年からという。小島政二郎さんの本や雑誌に登場して、すっかり有名になった天安は、創業は大正年間、団子坂の方に寄った大観音通りで創業、当主外山邦夫氏は三代目、へらざ口を叩かず、黙々と天ぶらを揚げている。以前は、根津坂上の拙宅まで出前もしてくれたが、昨今は大はやりで、出前どころではない。天安は今の場所が三度目と

いうことになる。天安で使っている油の主勢は、埼玉県武里の関根の油で、「丸叶キ」という銘柄、淡路島の「山角」、小豆島の「角今」、蒲郡の「丸本」などと共に一流の本胡麻油だ。私ごとで恐縮だが、私の家が春日部に疎開していたので、上の妹と関根油屋の娘さんとは、東京に戻るまでの間、春日部中学校で同級だった。こんな近郊でも、品種のよい胡麻油がよくそ作れるものだと感心する。

閑話休題。話を本筋に戻すと、大黒屋餅菓子店の北には、瀬戸物の平安堂があった。平安堂は浅嘉町の七五番地にもあって、肴町の方が加納代吉、浅嘉町は中島弥平が店をやっていた。平安堂の北隣が兩宮人参店で、朝鮮人參が、ウインドに飾ってあったのを思い出す。こんなものが今になって漢方や東洋医学で話題になっているのを見ると、ずいぶん昔から値打ちのあるものだったんだな、とうなづける。

#### ●印象に残る三倉の靴屋

私は、カメラをかついて都内の町歩きをするのが好きだ。先年、一ノ橋・麻布十番の商店街を歩いていたら、ミクラ靴店というのが豆源という有名な豆屋の並びにあった。ちよっと店へ入って聞いてみた。

「もしかして、昔、本郷肴町にあった三倉というお店と、おたくとは関係があるのかな」

「ええ、全く同じというのではないんですが、

昔、肴町の三倉に働いていた関係で名前を名乗らせてもらっています。有名な三中井靴店っていうのも三倉の出で、「三」の字を上にくっつけてるんですね。」

という答えが返って来た。私が小学生だった昭和十年頃、皮の靴をはいた小学生というのは、おませで生意気な子だった。大抵はブツクの運動靴や下駄ばきで通学した。冬の寒い時期以外は、私も下駄ばきで学校へ通っていたことが、アルバムの写真を見てわかる。だから学校にあるのは文字通り「下駄箱」であって「靴箱」ではなかった。肴町の三倉靴店は、思い出してもすごい大きな靴屋だった。確か間口よりも奥行きがとてつもなく長いお店だったと思う。下から天井の方まで靴の箱がびっしり並んであって、幾人もの店員が働き、お客の需めに応じて、店員はいろいろ靴を出してはかせて見せた。それ程、三倉には靴の種類が揃っていた。店の床には木製の箕の子が敷きつめてあって、その上で試みに靴をはいた記憶がある。私は編みあげの黒い靴を買った。当時、恐らく四円五十銭か五円はしたのだと思う。大学出の初任給が四十五円の時代に、その一割強の靴は贅沢だった。今なら約一万五千円以上に相当するかも知れない。だから、誠之小学校の子供は生意気だと周囲から言われた。戦前から既に電車通学の多い誠之では靴をはいて通学する子供が過半数だった。

た。この三倉は、神保町と駿河台下にも支店があった。本拠は東片町の方にあっただと思う。倉持隆蔵店主の率いる、東都有数の靴屋だった風に、子供心にも印象づけられている。丁度、電車を走らせたら洋菓子屋の銀扇と共に、この界限の過ぎたるもの一つであったことは確かだ。

三倉の北側には、今は団子坂の方に移動している並木砂糖店があった。当時、並木たまさんというおばさんが店主だったと思うが、しっかりとした砂糖屋だった。そしてその隣が、いよいよ肴町の交差点の角地になっていて、果物屋と、東にせんべい屋が並んでいた。電車のこととは後日まとめて書くが、昭和八年までは、巣鴨から新橋への市電が、白山上で左折して来て南天堂や高知堂や越後屋の前を通って、肴町でまたポイントを右に切って、帝大の方に走っていたので、それは交通上の要所として、賑やかな肴町交差点だった。そのレールは、つい数年前まで横町の通りに残っていたのを覚えておいての方も居られると思う。次回は、交差点を越した駒込館あたりの話をするつもりだ。

#### 計 報

当町会にお住まいの方で3月から6月末にご逝去された方々のご氏名は左記のとおりでございます。謹んでお悔やみを申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

滝沢伊代様 山崎さだ様 栗島重子様 中島正雄様

## 町会活動の概要

昭和61年3月から昭和61年6月まで

### 総務部

3月 消火器のあっせん販売

会員の皆さんから消火器の購入希望がありましたので、町会で信用のある専門業者に希望数を注文し、業者に納品させました。

(消火器では悪質な押し売り業者が横行し、問題になっていきます。ご用心を)

5月28日 向丘地区町会連合会総会

6月 北部地区、故菅谷氏の後任役員に山本宇一氏が就任されましたので、当地区の皆さんにお知らせします。

6月21日 昭和60年度定期総会開催

当町会の総会を開催し、昭和60年度の事業報告並びに決算報告、61年度事業計画並びに予算書の案件を上程、慎重な審議を経て承認されましたことを報告致します。

4月14日 町会リクレーション開催

お花見の季節でもありましたので、埼玉県にありますマヨネーズ工場見学と、清水公園での散策を企画しましたところ多数のご参加を得て、天候にも恵まれ皆さんにも満足して頂

ける楽しい催しでした。

### 防犯部

5月29日 駒込防犯協会総会

### 防火防災部

青年部の企画により、当町会の第2回自主防火訓練を本郷消防署のご指導を得て、向丘高校の校庭で催しました。

### 交通部

4月6日から4月15日まで春の全国交通安全運動  
当期間中は、婦人部並びに友の会の皆さんのご協力を得て連日、街頭指導を行い大勢の人々に交通の安全を啓蒙しました。

### 婦人部

6月 日本赤十字共同募金

募金については会員皆様の深いご理解とご協力を頂き有難うございました。当町会での募金額は次の通りでございます。

一金 一五五、〇五〇円

### 文化部

4月13日

小学校新入学児童の皆さんへ町会からお祝い品を贈呈

本年度、小学校へ入学されたお子様方の雄々しき成長を心より祈念いたしております。お名前は次のとおりです。

倉田佳幸・佐藤由佳・室屋祐子・小林由香里  
鯉田健一・常岡聰史・山本快太

### 青年部

3月2日 町会の自主防災訓練

町会の後援のもとに第2回目の防災訓練を催したところ、多数のご参加を頂き有意義な勉強会となりました。火の怖さは皆さん方も充分お解りになっていても、いざ、その現実が起きた場合、的確かつ迅速に消火に当たるには普段からの心構えがないと大変に難しいことです。青年部では町会の皆さんが消火器の取り扱いを完全にマスターされるよう防災訓練を兼ねた講習会を企画しております。その節にはご参加下さい。

### 編集部

永い梅雨も明けてこれからは夏本番、体調をくづさないよう気をつけて頑張らしましょう。

今年の祭礼は本祭りです。どうぞ宜しく御願いを申し上げます。ご意見等がございましたら文化部あてご連絡を御願いたします。

編集委員 小林音吉 竹中一馬 猪熊良晃

高橋一郎 翁 松夫 池田 暉

## 昭和60年度決算報告書

昭和60年4月1日～昭和61年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	0		総会費	132,880	会場費及茶菓子代
町会費	1,175,400		会議費	54,440	役員会会場費茶菓子代
補助金	169,000	区より	総務費	383,500	部会及研究等に
寄付金	73,000		渉外費	82,450	関係団体等
雑収入	190,500		備品費	56,000	維持費・購入費
銀行利息	2,906		事務費	93,780	
防災積立金 より支出	186,927	町会旗修理及 備品庫整備 青年部訓練服	通信・交通	57,260	
			電気代	133,288	防犯灯, 維持費含む
			防火部	45,740	防火訓練費他
			防犯部	33,820	防犯訓練費他
			交通部	69,850	交通安全運動費他
			衛生部	0	
			文化部	175,190	蓬萊町たより, 成人, 新入学祝
			婦人部	139,760	敬老費他
			青年部	211,215	部費
			慶弔費	48,000	
			消耗品費	80,560	
			繰越金	0	
合計	1,797,733		合計	1,797,733	

( 防災積立金現在残高 803,454 )

昭和61年6月21日

収支決算上記の通り報告します。

町会長 久貝 貫一 印

会計 川西正造 印

上記の決算相違なき事を証明します。

会計監査 須藤 正四郎 印

## 昭和61年度予算書

昭和61年4月1日～昭和62年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	0	前年度より	総会費	130,000	会場費及茶菓子代
町会費	1,200,000		会議費	60,000	役員会会場費茶菓子
補助金	169,000	(区より)	総務部	200,000	部会及研究等に
雑収入	150,000		渉外費	80,000	関係団体等
利息	3,000	銀行	備品費	60,000	維持・購入費
			事務費	100,000	
			通信・交通費	60,000	
			電気代	70,000	防犯灯維持費含む
			防火防災部	50,000	訓練費他
			防犯部	50,000	夜警等に
			交通部	70,000	安全運動費他
			衛生部	10,000	
			文化部	170,000	蓬萊町たより, 成人, 新入学祝
			婦人部	150,000	敬老費他
			青年部	200,000	部費
			慶弔費	30,000	
			予備金	32,000	
合計	1,522,000		合計	1,522,000	